

資料 自他動詞の派生対立分類表

- 凡例 ■：分類項目 ▲：亜種 ★：D⁺をベースにもち、併存する自・他動詞をもつもの
 ⇄：派生対立関係 < >：文語動詞の終止形
 ☆：主要な意味が自他で対応しないもの 【 】：両極化語尾、自・他動詞化辞、自他顕在化辞と元の形態
 ※：自他で主客の交替が起こらないもの []：当該の分類に合わない派生対立関係の動詞（併存する自・他動詞）
 #：現代語ではほとんど用いられないもの !：注釈

■A-1

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
他動詞化語尾【・su】	自動詞化語尾【・ru】		
渡す<渡す>、下す、移す、写す、戻す、帰す、返す、直す、残す、通す、回す、浸す、点す、余す、成す、無くなる#	渡る<渡る>、下る、移る、写る、戻る、帰る、返る 直る、残る、通る、回る、浸る、点る、余る、成る、無くなる		
転がす	転がる		[転げる] <転ぐ> C-1-1
散らかす C-1-2' [散らす] C-1-2	散らかる [散る] C-1-2		
起こす	起こる		[起きる] <起く>C-2-3
足す☆	<足る>→		!一段動詞化 [足りる] ☆
★A-1/(C-1-1)/D-2 ⁺			
抜かす<抜かす>(C-1-1) [抜く] <抜く>D-2	抜かる<抜かる> [抜ける] <抜く>D-2 (C-1-1)		
*形態のみ対立する動詞（二つとも構文上は他動詞）			
さとす（論ず）	さとる（悟る）		
かす（貸す←借す）	<かる（借る）>→		!一段動詞化 [借りる]

■A-2

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
他動詞化語尾【・su】			自動詞化語尾【・ru】（口語・reru）
流す<流す>(四)、離す、隠す、潰す、崩す、汚(yogo/kega)す、倒す、壊す、現す、表す、乱す、こなす、逃(noga)す、外す、蒸す、こぼす			流れる<流る>(下二)、離れる、隠れる、潰れる、崩れる、汚(yogo/kega)れる、倒れる、壊れる、現れる、表れる、乱れる、こなれる、逃(noga)れる、外れる、蒸れる、こぼれる
★A-2/(C-1-1)/D-2 ⁺			
剥がす<剥がす>(C-1-1) [剥ぐ] <剥ぐ>D-2			剥がれる<剥がる>!「剥ぐ」(四)+受身「る」の解釈も可能 [剥げる] <剥ぐ>D-2 (C-1-1)

■A-3

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
	自動詞化語尾【・ru】	他動詞化語尾【・su】（口語・seru）	
	寄る<寄る>(四)、乗る	寄せる<寄す>(下二)、乗せる	↓!国文法では語幹と語尾の区別なし
▲A-3'		他動詞化語尾【・su】（口語・seru）	自動詞化語尾【・ru】
		似せる<似す>(下二)	似る<似る>(上一)
*形態のみ対立する動詞（二つとも構文上は他動詞）			
	単他動詞	複他動詞	単他動詞
	被る<被る>(四) [被さる] !自動詞B-1-1	被せる<被す>(下二)	
		見せる<見す>(下二)、着せる	見る<見る>(上一)、着る [見える] <見ゆ>自動詞E
		浴びせる<浴びす>(下二)	浴びる<浴ぶ>(上二)

■B-1-1-1 (!形容詞が元となって派生した「~める」「~まる」のペアは網羅していない)

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
	自動詞化辞【-ar(u)】⇄	⇄【-(u)】（口語-eru）	
	植わる<植わる>(四)、据わる☆;見つかる、掛かる、助かる、受かる※、儲かる※;上/挙がる、揚がる、下がる、曲がる;当たる;茹だる;重なる、連	植える<植う>(下二)、据える☆;見つける、掛ける、助ける、受ける※、儲ける※;上/挙げる、揚げる、下げる、曲げる;当てる;茹でる;重ねる、連	

	なる；決まる、止まる、集まる、閉まる、温まる、始まる、固まる、染まる、定まる、高/広/薄/丸まる、暖/温まる、炒まる、改まる、溜まる；変わる、終わる、備わる、加わる、交わる	ねる；決める、止める、集める、閉める、温める、始める、固める、染める、定める、高/広/薄/丸める、暖/温める、炒める、改める、溜める；変える、終える、備える、加える、交える	
[負かす] C-1-1	負かる<負かる>	負ける<負く>	[負ける] <負く> C-1-1
[分かっ] E	分かる<分かる> (四) ☆	分ける☆<分く>	[分かれる] <分かる> (下二) E
[被る] A-3 ! 単他動詞	被さる	被せる<被す> ! 複他動詞	
	埋(u/uzu)まる [埋(u/uzu)もる] # B-2-1	埋(u/uzu)める<埋む>	[埋もれる] <埋もる> (下二)
	混ざる [混じる] <混じる> ! 例外的派生対立形態	混ぜる<混ず>	
	勤/務まる	勤/務める<勤/務む>	[勤める]
B-1-1 と D-1 の併存			
[合わす]	合(わ)さる	合(わ)せる<合(は)す> ! <合ふ>+使役「す」	
! 下二段の四段化	[合う] <あふ>D-1	(和える) <あふ>D-1	
★B-1-1/D-1 ⁺			
	休まる、屈まる、伝わる [休む] [屈む] [伝う] D-1	休める、屈める、伝える <休む><屈む><伝う>	
	縮まる、緩まる、詰まる、絡まる、漬/浸かる [縮む] [緩む] [詰む] [絡む] [漬/浸く] D-1	縮める、緩める、詰める、絡める、漬/浸ける <縮む><緩む><詰む><絡む><漬/浸く>	
*形態のみ対立する動詞 (二つとも構文上は他動詞)			
	単他動詞	複他動詞	
	預かる；教(oso)わる！音韻交替もあり；授かる！自動詞もあり	預ける；教(osi)える；授ける	

■ B-1-2

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
[-(u)] ⇒	⇒自動詞化辞【-ar(u)】	[-(u)] (口語-eru)	
①併存する他動詞なし			
刺す<刺す> (四)、挟む	刺さる<刺さる> (四)、挟まる	[- -] <- - >、[- -] <挟む> (下二)	
②併存する他動詞あり			
繋ぐ、塞ぐ	繋がる、塞がる	[繋げる] <繋ぐ>、[塞げる] # <塞ぐ> (下二)	
包(kuru)む※、跨ぐ※	包まる※、跨がる※	[包める] # <包む>、[跨げる] # <跨ぐ>	
▲ B-1-2'			
つかむ	つかまる	[つかまえる] <つかまふ> (←つかむ+「ふ」)	
(捕む)	捕まる	[捕まえる]	
掴む※	掴まる※	(掴まえる)	

■ B-2-1

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
	他動詞化辞【-or(u)】 ⇐	⇐【-(u)】 (口語-eru)	
	埋(u/uzu)もる # (四) [埋(u/uzu)まる] B-1-1	埋(u/uzu)める<埋む> (下二)	[埋もれる] <埋もる> (下二)
★B-2-1/D-1 ⁺			
	こもる (籠る) ☆ [こむ (込む)] D-1	こめる (込める) ☆<込む>	

■ B-2-2

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
[-(u)] ⇒	⇒自動詞化辞【-or(u)】		
積む☆<積む> (四)	積もる☆		

■ C-1-1

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
他動詞化辞【-as(u)】 ⇐		⇐【-(u)】 (口語-eru)	
明かす☆<明かす> (四)、更かす、化かす※、ぼかす、ふやかす；果たす☆、焦がす、逃がす；覚ます、冷ます；癒やす、肥やす、生やす、増やす；荒		明ける☆<明く> (下二)、更ける、化ける※、ぼける、ふやける；果てる☆、焦げる、逃げる；覚める、冷める；癒える、肥える、生える、増える；荒れる、	

らす、慣らす、枯らす、揺らす、濡らす、暮らす ☆、晴らす☆、腫らす、遅らす、逸らす；出(da)す			慣れる、枯れる、揺れる、濡れる、暮れる☆、晴れる ☆、腫れる、遅れる、逸れる；出(de)る<づ>
負かす<負かす>	[負かる]	[負ける]	負ける<負く>
絶やす [絶つ] E	↑B-1-1	↑B-1-1	絶える<絶ゆ>
燃やす、蒸らす [燃す] E [蒸す] A-2	↓A-1		燃える<燃ゆ>、蒸れる<蒸る>
転がす	[転がる]		転げる<転ぐ>
透かす、漏らす 照らす☆※	[透く] [漏る] [照る] ※	←C-1-2	透ける<透く>、漏れる<漏る> 照れる☆<照る>
★C-1-1/D-2+			
溶かす、抜かす、欠かす、切らす [溶く] [抜く] [欠く] [切る] D-2			溶ける、抜ける、欠ける、切れる <溶く><抜く><欠く><切る>
ずらす [ずる] !他動詞より自動詞の意味が優勢	[ずる]		ずれる<ずる>
▲C-1-1-1' ([-as(u)] +) [-akas(u)]			
冷やす : 冷やかす☆ はぐらす# : はぐらかす☆ 紛らす : 紛らかす#☆			冷える☆<冷ゆ> はぐれる☆<はぐる>、 紛れる☆<紛る>
甘やかす、脅(obiya)かす			甘える<甘ゆ>、脅える<脅ゆ>
寝かす ! 「寝(nu)」は語幹と語尾の区別がないため未然 形に接続し「ne-kasu」となったのか(?)		[寝せる] <寝(ne)す←寝(na)す>(下二) [寝かせる] <寝かす>(下二)	寝(ne)る<寝(nu)>

■C-1-2 (!「～せる」(下二段)と「～す」(五段)の両形が、同じ意味用法で併存するペアは原則して除外)

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
他動詞化辞 [-as(u)] ⇐		⇐ [-(u)]	
動かす<動かす>(四)、沸かす、乾かす；飛 ばす；減らす、鳴らす、凝らす	動く<動く>(四)、沸く、乾く；飛 ぶ；減る、鳴る、凝る		
透かす☆、漏らす☆、照らす☆※	透く☆、漏る☆、照る※	C-1-1→	[透ける] [漏れる] [照れる] ☆ <透く><漏る><照る>
G-1-2とD-1の併存			
浮かす	浮く [浮かぶ] D-1	[浮かべる]	D-1
▲C-1-2' + [-akas(u)]			
散らす：散らかす 笑わす：笑わかす(一笑かす)	散る 笑う	[散らかる] A-1	(笑ける) ! 方言

■C-1-3

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
他動詞化辞 [-as(u)] ⇐		⇐ [-(u)] (口語-iru)	
①併存する他動詞なし		↓「満たない」の形で残っている	
満たす<満たす>(四)	<満た>	[-----] <満た>(下二)	満ちる <満た>(上二)
綻ばす	<綻ぶ>	[-----] <綻ぶ>	綻びる <綻ぶ>
閉ざす	↑文語現存	[-----] <閉ざ>	閉じる <閉づ> ! 自他両用動詞
懲らす#		[-----] <懲ら>	懲りる <懲る>
尽かす☆ [尽くす] ! 例外的派生対立形態		[-----] <尽く>	尽きる☆ <尽く>
出来(deka)す☆		(できる) ! 自動詞で方言	出来(deki)る☆ <でくる>←<でく>カ変
②併存する他動詞あり			
生かす<生かす>(四)	<生く>	[生ける] <生く>(下二)	生きる <生く>(上二)
延/伸ばす		[延/伸ばる] <延/伸ばぶ>	延/伸びる <延/伸ばぶ>

■C-2-1 (登録語なし)

■C-2-2

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
他動詞化辞 [-os(u)] ⇐		⇐ [-(u)]	
及ぼす<及ぼす>(四)	及ぶ<及ぶ>(四)		

潤す<潤す(uruh-os-u)>	潤う<潤ふ(uruhohu)>←(uruhahu)←<潤ふ(uruh-u)>+「ふ」		
-------------------	--	--	--

■C-2-3

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
他動詞化辞【-os(u)】←		←【-(u)】(口語-iru)	
過ごす<過ごす>(四); 落とす;(脅す); 降ろす、下ろす; 干(ho)す		過ぎる<過ぐ>(上二); 落ちる; (怖じる<怖づ>); 降りる、下りる; 干(hi)る#<干(hu)>	
起こす<起こす>		[起こる] A-1	起きる<起く>
減ばす<減ばす>		[減ぶ] !文語現存	減びる<減ぶ>

■D-1

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
自他同形【-(u)】		自他同形【-(u)】 ⇔ 自他顕在化辞【-er(u)】	
揃う<揃ふ>(四)、整う、違う、間違う、従う、叶う、添う; 開(a)く、空く、付く、片付く、続く、傾く、届く、落ち着く、近づく、退(sirizo)く、退く(no/do)く、背く※; 傾(kasi)く※、和らぐ; 伏す※; 立つ、建つ、育つ; 並ぶ; 赤らむ、痛む、傷む、沈む、進む、止(ya)む☆、苦しむ、歪む、潜む※、すくむ		揃える<揃ふ>(下二)、整える、違える、間違える、従える、叶える、添える; 開(a)ける、空ける、付ける、片付ける、続ける、傾ける、届ける、落ち着ける、近づける、退(sirizo)ける、退(no/do)ける、背ける※; 傾(kasi)げる※、和らげる; 伏せる※; 立てる、建てる、育てる; 並べる; 赤らめる、痛める、傷める、沈める、進める、止める☆、苦しめる、歪める、潜める※、すくめる	
入(i)る (→這(ha)い入(i)る→入(hai)る)		入(i)れる<入(i)る> ! 「・れる」が他動詞になる唯一の例	
向く 向かう<向かふ> (←「向く」+「ふ」)		向ける<向く> (迎える)<むかふ>	
★B-1-1/D-1+			
休む※☆、屈む※☆、伝う※☆ [休まる] [屈まる] [伝わる] B-1-1		休める※☆、屈める※☆、伝える※☆	
縮む、緩む、詰む、絡む; 漬/浸く B-1-1→ [縮まる] [緩まる] [詰まる] [絡まる] [漬/浸かる]		縮める、緩める、詰める、絡める、漬/浸ける	
★B-2-1/D-1+			
込む☆ [こもる (籠もる)] B-2-1		込める☆<込む>	
C-1-2とD-1の併存			
浮かぶ [浮かす] [浮く] C-1-2		浮かべる<浮かぶ>	
*形態のみ対立する動詞 (二つとも構文上は他動詞)			
含む		含める<含む>	

■D-2

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
自他同形【-(u)】		自他同形【-(u)】 ⇔ 自他顕在化辞【-er(u)】	
(1)「完全体→非完全体」			
焼く<焼く>(四)、砕く、裂く、解(to)く、解(hodo)く、剥(mu)く、くじく、はじく; 脱ぐ、もぐ; 折る、破る、取る、割る、掘る、擦る、ちぎる、よじる、ねじる、まくる/めくる		焼ける<焼く>(下二)、砕ける、裂ける、解(to)ける、解(hodo)ける、剥(mu)ける、くじける、はじける; 脱げる、もげる; 折れる、破れる、取れる、割れる、掘れる、擦れる、ちぎれる、よじれる、ねじれる、まくれる/めくれる	
★A-1/(C-1-1)/D-2+			
抜く<抜く> [抜かす] <抜かす>(C-1-1) A-1		抜ける<抜く>(C-1-1) [抜かる] <抜かる>A-1	
★A-2/(C-1-1)/D-2+			
剥(ha)ぐ<剥ぐ> [剥がす] <剥がす>(C-1-1) A-2		剥(ha)げる<剥ぐ>(C-1-1) [剥がれる] <剥がる>A-2	
★C-1-1/D-2+			
溶く、欠く、切る [溶かす] [欠かす] [切らす] C-1-1		溶ける<溶く>、欠ける<欠く>、切れる<切る>	
ずる ! 他動詞より自動詞の意味が優勢 [ずらす]		(ずる)	ずれる<ずる>

(2)生産動詞			
焼く、炊く、編む、織る			焼ける<焼く>、炊ける<炊く>、編める<?>、織れる<?>
(3)その他の概念			
売る、知る、釣る			売れる、知れる、釣れる<?>
捕る、獲る、採る；撮る ＜捕る＞＋「ふ」→＜捕(tora)ふ＞	→	[捕(ら)える]	捕れる、獲れる、採れる；撮れる
(4)熟語でのみ対応			
(気を)揉む、(気を)引く、(道を)開く			(気が)揉める<揉む>、(気が)引ける、(道が)開ける

■E

五段動詞		一段動詞	
他動詞	自動詞	他動詞	自動詞
【・つ】【・す】			【・ゆ】(口語・える)【・る】(口語・れる)
絶つ<絶つ> [絶やす] C-1-1			絶える<絶ゆ>
放つ<放つ> [放す] A-2			放れる<放る>
分かっ<分かっ>	[分かる] <分かる>B-1-1	[分ける] <分く>B-1-1	分かれる<分かる>
越す<越す>	[越す]		越える<越ゆ>
燃す<燃す> [燃やす] C-1-1			燃える<燃ゆ>
【-e・す／つ】			【-i・ゆ】(口語・える)
消(ke)す<消す←消つ>			消える<消(ki)ゆ>
		【・る】	【・ゆ】(口語・える)
		見る<見る> [見せる] <見す>A-3	見える<見ゆ>
		煮る<煮る>	煮える<煮ゆ>
【-u】			【-o・ゆ】(口語・える)
聞<聞く>			聞こえる<聞こゆ>

■引用・参考文献リスト

- 奥津敬一郎 (1967) 「自動化・他動化および両極化転形 ー自・他動詞の対応ー」 『国語学』 No. 70 国語学会 pp. 46-66
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房
- 影山太郎 (1996) 『動詞意味論ー言語と認知の接点ー (日英語対照研究シリーズ5) 』 くろしお出版
- 影山太郎 (2000) 「自他交替の意味的メカニズム」 (丸田忠雄・須賀一好編『日英語の自他の交替』) ひつじ書房 pp. 33-69
- 川端善明 (1997) 『活用の研究II』 清文堂出版
- 国立国語研究所日本語教育センター日本語教育研修室[編] (1982) 『プログラム教材 自動詞と他動詞との派生対応』 国立国語研究所日本語教育センター日本語教育研修室
- 佐久間鼎 (1983) 『現代日本語の表現と語法<増補版>』 くろしお出版 (恒星社厚生閣 1966年刊の復刊本)
- 島田昌彦 (1979) 『国語における自動詞と他動詞』 明治書院
- 須賀一好 (2000) 「日本語動詞の自他対応における意味と形態との相関」 (丸田忠雄・須賀一好編『日英語の自他の交替』) ひつじ書房 pp. 111-131
- 坪井美樹 (2001) 『日本語活用体系の変遷 増訂版』
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味I』
- 西尾寅彌 (1954) 「動詞の派生について ー自他対立の型によるー」 『国語学』 No. 17 国語学会 pp. 105-117
- 西尾寅彌 (1982) 「自動詞と他動詞 ー対応するものとしらないものー」 『日本語教育』 No. 47 日本語教育学会 pp. 57-68
- 水谷静夫 (1982) 「現代語動詞の所謂自他の派生対立」 『計量国語学』 13-5 計量国語学会 pp. 212-223
- 村木新次郎 (1991) 『日本語動詞の諸相』 ひつじ書房
- 望月世教 (1944) 「国語動詞に於ける対立自他の語形に就いて」 『國語學論集:橋本博士還暦記念』 橋本博士還暦記念會編 岩波書店 pp. 449-482
- 本居春庭 (1828) 「詞の自他の事」 『詞の通路』 (須賀一好・早津恵美子編 (1995) 『動詞の自他 (日本語研究資料集 第1期第8巻) 』 ひつじ書房 pp. 7-12に再録)
- 森田良行 (1994) 『動詞の意味論的文法研究』 明治書院